

セビリアの理髪師

軽妙洒脱なストーリー展開と声の妙技が楽しいロッシーニ随一の人気作。

ロッシーニ・クレシェンドで盛り上がる序曲にはじまり、

「私は町のなんでも屋」「今の歌声は」などおなじみのナンバーにのせて、コミカルでスパイスの効いた恋の物語が繰り広げられます。

ヨーゼフ・E. ケップリンガーによる、1960年代のスペインを舞台にしたカラフルでポップな演出は抱腹絶倒をお約束。

アルマヴィーヴァ伯爵役には次世代のベルカント・テノールとして注目を浴びるルネ・バルベラ、ロジーナ役には新国立劇場の『ドン・ジョヴァンニ』にドンナ・エルヴィーラ役で出演し話題を集めた脇園彩、そしてフィガロ役には朗々たる声で世界を席卷するフローリアン・センペイら充実のキャストが集結します。

指揮には世界の劇場から引く手あまたのアントネッロ・アッレマンディが久々に新国立劇場に登場。

オペラ・ブッフアの最高傑作にどうぞご期待ください。

■STORY

アルマヴィーヴァ伯爵は、町一番の美人ロジーナにひと目惚れ。しかし、財産目当てで執心の後見人バルトロのせいで、ロジーナはアプローチ不可能の箱入り娘状態。そこで伯爵は、お金さえもらえれば散髪から身の上相談、恋の仲介、手紙の代筆まで何でもする町の便利屋のフィガロに助けを求める。あの手この手でバルトロ家に侵入し、伯爵の想いはロジーナに伝えられるが、大混乱を巻き起こす。フィガロの機転でピンチを脱し、すったもんだの末ハッピーエンドで幕となる。